

## 小田原市教育委員会定例会会議録

- 1 日時 平成28年10月27日(木)午後7時00分～午後8時14分  
場所 小田原市役所 6階 601会議室

2 出席した教育委員の氏名

- 1番委員 吉田 眞理  
2番委員 栢 沼 行 雄 (教育長)  
3番委員 萩 原 美由紀 (教育委員長職務代理者)  
4番委員 和 田 重 宏 (教育委員長)  
5番委員 森 本 浩 司

3 説明等のため出席した教育委員会職員等の氏名

教育部長	内 田 里 美
文化部長	関 野 憲 司
教育部副部長	隅 田 俊 幸
文化部副部長	安 藤 圭 太
文化部副部長	杉 崎 貴 代
教育総務課長	柏 木 敏 幸
保健給食課長	川 口 博 幸
教育指導課長	市 川 嘉 裕
教育指導課指導・相談担当課長	石 井 美佐子
文化財課長	大 島 慎 一
図書館長	古 矢 智 子
スポーツ課長	尾 沢 昌 裕
教育総務課担当副課長	栗 原 雄 一
教育指導課副課長	瀬 戸 浩
保育課副課長	大 井 友 海
教育指導課指導主事	綾 部 敏 信
教育総務課施設係長	村 島 治
教育指導課学事係長	田 村 直 美
教育総務課主査	室 伏 政 志
保育課主事	和 田 理 美

(事務局)

教育総務課総務係長	高 瀬 聖
教育総務課主任	田 代 香

#### 4 報告事項

- (1) 市議会9月定例会・決算特別委員会の概要について (教育部・文化部)
- (2) 「小田原市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例施行規則」の改定について (教育指導課)
- (3) 平成28年度全国学力・学習状況調査小田原市の結果の公開について (教育指導課)
- (4) 平成28年度上半期寄付採納状況について (教育総務課)

#### 5 協議事項

- (1) 平成28年12月補正予算について【非公開】 (教育総務課・教育指導課)

#### 6 議事等の概要

- (1) 委員長開会宣言
- (2) 9月定例会会議録の承認…栢沼委員報告
- (3) 会議録署名委員の決定…萩原委員、森本委員に決定

和田委員長…それでは、議事に入る前に、会議の非公開について、お諮りいたします。

協議事項(1)「平成28年12月補正予算について」は、平成28年12月小田原市議会定例会への提出案件でありますので、その性質上、これを非公開といたしたいと存じます。本議案を非公開とする件について、採決してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

和田委員長…それでは、ご異議もありませんので、採決いたします。協議事項(1)を非公開とすることに賛成の方は、挙手願います。

(全員挙手)

和田委員長…全員賛成により、協議事項(1)は、後ほど非公開での審議といたします。

(4) 報告事項 (1) 市議会 9 月定例会・決算特別委員会の概要について

(教育部・文化部)

教育部長…それでは、私から、報告事項 (1) 「市議会 9 月定例会・決算特別委員会の概要について」 ご報告をさせていただきます。恐れ入りますが、資料 1 をご覧ください。

1 ページは、日程でございます。

9 月定例会の会期は、9 月 1 日から 10 月 5 日まででございました。9 月 6 日が議案関連質問、8 日が厚生文教常任委員会、14 日から 21 日までが一般質問、21 日から 30 日まで決算特別委員会による平成 27 年度決算の審査でございました。

2 ページは、厚生文教常任委員会の概要でございます。教育部所管につきましては、今回はございませんでした。

続きまして、3 ページをご覧ください。

教育部関連の一般質問といたしまして、質問順 1 の楊隆子議員、5 安藤孝雄議員、6 鈴木敦子議員、7 浅野彰太議員、8 井原義雄議員、12 大村学議員及び 13 安野裕子議員の 7 名から質問がございました。このうち、大村議員の要旨を説明させていただきます。その他の一般質問の要旨につきましては、報告を省略させていただきますので、恐れ入りますが、後ほど資料をご覧くださいませようお願いいたします。

7・8 ページをご覧ください。

大村議員から「防犯カメラの設置について」及び「学校司書について」について質問がありました。

このうち、学校司書の直接雇用に関連する質問に対して、「平成 26 年に学校図書館法の一部が改正され、すべての小・中学校に校長の指揮監督下にある学校司書を置くように努めなければならないとされたが、委託により配置している学校司書はこれに該当しないとの解釈があることは承知している。学校司書を配置して 5 年を経過したこともあり、今後は、これまでの業務実績を十分検証した上で、直接雇用について前向きに検討していきたい。」旨を答弁いたしました。

続きまして、資料の 11 ページをご覧ください。

決算特別委員会のうち、教育部関連の総括質疑につきましては、質問順 3 鈴木敦子委員、4 川崎雅一委員、5 安藤孝雄委員、6 佐々木ナオミ委員及び 11 神永四郎委員の 5 名から質問がございました。

このうち、神永委員の要旨を申し上げます。なお、その他の総括質疑につきましては、報告を省略させていただきますので、後ほど資料をご覧くださいませようお願いいたします。

13・14 ページをご覧ください。

神永議員から「学力向上事業について」及び「部活動地域指導者活用事業費について」の 2 つについて質問がございました。

このうち、部活動地域指導者についての「増員が必要であるとするが、見解を伺う」との質問に対し、「市では部活動地域指導者の人数につきましては、各中学校の学校規模や部活動の現状等に鑑み、決定しているところであり、今後も、引き続き部活動の活性化を図れるよう、各中学校の指導者の活用状況や顧問教諭の状況等に応じた適正な配置に努めたい。」旨を答弁いたしました。以上で、教育部に係る「市議会9月定例会・決算特別委員会の概要について」の報告を終わらせていただきます。

文化部長…引き続きまして、私から文化部所管の概要について、ご説明申し上げます。まず一般質問でございますが、資料の10ページをご覧くださいと存じます。

鈴木議員から、「スポーツ施設の一般開放のあり方について」質問がございました。

まず、「学校施設のスポーツ開放の位置づけ等」について質問がございました。本市では社会体育の振興を図るため、市立小・中学校の施設・設備を学校教育上支障のない範囲内で開放している。多くの市民が身近な場所でスポーツができることは小田原市スポーツ基本指針の示す「だれもが、どこでも、いつまでもスポーツができる」生涯スポーツ社会の実現につながる旨、答弁いたしました。

また、「スポーツ開放の利用時間の運用について」質問があり、スポーツ開放の時間は規則で定められているが、利用時間や、団体間の割り振り等は学校長の判断で行っている旨を答弁いたしました。

さらに「スポーツ開放で使用する備品等の修繕について」質問がございました。現在、学校開放にかかる備品は、学校教育施設として授業での使用状況により予算措置をしており、今後は、受益と負担のあり方も含め、他市の対応状況等も調べたうえで検討してまいりたい旨、答弁をいたしました。

次に、決算特別委員会総括の状況についてご説明をいたします。資料の15ページをご覧くださいと存じます。

はじめに、日本共産党 田中委員から「住吉橋修復実施設計について」質問がございました。

「橋の腐食に対する雨水対策について」の質問に対し、今回の実施設計では、橋の床板に水勾配をつけ、水切用金物を銅製に変更する等の対策を講じた旨、答弁しました。

次に、新生クラブ 安藤委員から「市立図書館、かもめ図書館の利用状況について」及び「本の貸出状況から見える課題について」質問がございました。

まず、「市立図書館、かもめ図書館の利用状況について」は、図書の貸出者数、貸出冊数の減少についてどのように分析しているかとの質問があり、図書の貸出者数等の減少の大きな要因としてはインターネットの普及や生活スタイ

ルの変化などが考えられる。図書館の利用の仕方は本の貸出に限らず、数字に表れない調査・研究・学習のための来館など多様であり、図書館の役割が大きなものであることに変わりないと考えている旨、答弁しました。

また、「本の貸出状況から見えてくる課題について」として、新規購入した図書で一度も貸出がない図書の状況をどのように考えるかとの質問があり、多くの方の利用により、未貸出図書がなくなることは望ましいが、図書館が図書館として機能するためには、幅広く様々な分野の蔵書構成が必要であるため、ある程度の未貸出図書が出るのはやむを得ないと考えている旨、答弁しました。最後に、公明党 楊委員から「御用米曲輪整備費及び発掘調査について」質問がございました。

まず、「御用米曲輪の整備予定について」質問があり、曲輪内にある小田原北条氏時代の建物跡、庭園跡については、保存・整備、見せ方の検討を進めるとともに、曲輪内部にある江戸時代の米蔵跡等については、東京オリンピック・パラリンピックの開催される平成32年度の公開を目指し、整備を進めていく旨、答弁をいたしました。

また、「緊急発掘調査について」質問があり、市内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が280箇所あり、この包蔵地内で土木工事が計画された場合には、文化財保護法に基づき、神奈川県教育委員会への届出等が必要とされ、工事により埋蔵文化財が破壊される際には、緊急発掘調査を実施することとされている。今後も、埋蔵文化財の現状保存が困難な工事の場合には、事業者の協力を得ながら緊急発掘調査は実施していく旨、答弁をいたしました。

以上で、文化部所管の「概要について」の報告を終わらせていただきます。

#### (質 疑)

萩原委員…7ページの井原議員の質問項目「本市の児童生徒の体力・運動能力向上推進事業について」で「おだわら百彩」について質問があったようですが、「おだわら百彩」は学校の中で、どの程度取り組まれているのか分かりますか。

教育指導課長…答弁にもございましたとおり小学校の体育大会の準備運動として実施させていただいている関係もございまして、多くの学校で運動会の準備運動として取り入れています。また、中学校では昼の地域種目として取り入れている学校もございます。

萩原委員…普段の体育の授業では取り入れてはいないということですか。

教育指導課長…特にはございません。

萩原委員…覚えるのが大変だと思いますが、子供たちの反応はいかがですか。

教育指導課長…小学生は一生懸命行っております。

和田委員長…萩原委員は体操内容をご存知なのですか。

萩原委員…何度も教えていただいているのですが、なかなか難しく、覚えることがやっとで、心拍をあげるほどの準備運動にはならないかなと思いました。

和田委員長…今の意見について教育長いかがですか。

栢沼教育長…おっしゃるとおりです。たとえば小学校体育大会は陸上競技が種目のほとんどを占めており、もっとふさわしい準備体操があるのではないかというご指摘もございます。学校現場の実行委員会でも、以前から議論されておりました、検討してほしいという声があれば、いつでも現場で対応できる体制にはなっているそうです。おそらく来年にはなんらかの形で検討されていくのではないかと思います。

和田委員長…4・5ページ安藤議員の「かけがえのない命を守る取組の推進について」で、今年の運動会は終わったと思いますが、最近よく「組立体操はやらない」と報道されていますが、小田原市の現状はいかがですか。

教育指導課長…昨年までは数校で実施している経過もございましたが、今回の報道または文科省含め神奈川県、小田原市からも注意喚起の文書を3月末に出したところ、校長会で、組立体操の単独での実施は控え、表現の演技の中で安全で可能な範囲の体操を披露していくという方向に今年度は変わりました。単発種目での組立体操の実施はしない方向に改まってきている状況です。

和田委員長…組立体操だけでなく、運動会で事故等何か報告はございましたか。

教育指導課長…特段報告は受けておりません。

(その他質疑・意見等なし)

和田委員長…以上で、文化財課が関連する議題が終了いたしましたので、関係の職員は、ご退席ください。

(文化財課 退席)

(5) 報告事項 (2) 「小田原市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例施行規則」の改正について (教育指導課)

教育指導課長…それでは、報告事項 2 「小田原市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例施行規則の改正について」、私からご報告させていただきます。

子ども・子育て支援新制度における市立幼稚園の保育料につきましては、子ども・子育て支援法に基づき、「小田原市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則」第 3 条第 1 号により、その世帯の所得状況や家族状況などを勘案して市が決定しております。

この条例施行規則を一部改正するにあたりまして、資料 2 にございます、改正前、改正後に記載されておりますが、国では、幼児教育の段階的無償化に向けた取り組みとして、年少から小学校 3 年生までの範囲内に子供が 2 人以上いる場合、その中で最年長の子供を第 1 子、その下の子供を第 2 子とカウントし、第 2 子を半額、第 3 子以降を無償とする多子世帯に係る特例措置を講じおりました。

平成 28 年度からは、世帯の市町村民税所得割額が 77, 100 円までの世帯につきましては、従来の多子軽減における年齢の上限を撤廃するとともに、同階層のひとり親世帯等については、負担軽減を拡大する措置を講ずることとなりました。

国による、子ども・子育て支援法施行令の一部を改正する政令については、平成 28 年 4 月 11 日から施行されておりました。しかしながら、本市では主管課であります保育課の「保育料徴収システム」の改修が間に合わなかったため、新たな負担軽減措置への対応が可能となる平成 28 年 10 月に本規則の改正を行いました。それに伴い、今回の改正の対象となるご家庭につきましては、年齢条件が撤廃されましたので、第 2 子、第 3 子の扱いが決定してくることになりました。市立幼稚園の保育料につきましては、平成 28 年 4 月に遡って適用しようとするものです。

以上で説明を終わらせていただきます。

(質 疑)

和田委員長…適用は第3子までではないのですね。

教育指導課長…「第3子以降」ですので、第4子・第5子がいれば対象となります。

(その他質疑・意見等なし)

和田委員長…以上で、保育課が関連する議題が終了いたしましたので、関係の職員は、ご退席ください。

(保育課 退席)

(6) 報告事項 (3) 平成28年度全国学力・学習状況調査小田原市の結果の公開について  
(教育指導課)

教育指導課長…それでは、私から、平成28年度全国学力・学習状況調査の小田原市の結果の公開について報告させていただきます。資料3をご覧ください。

こちらは、本年度の全国学力・学習状況調査の本市の結果をまとめた資料でございます。昨年度までは30ページを超える資料であり、12月にお示ししていた内容になりますが、今年度につきましては、グラフや表を増やし、内容を精選し、10ページ程度にまとめました。また、より見やすい資料になるよう心がけまして、報告させていただくことになりました。

それでは、資料に沿って、結果の概要及び本市の傾向、課題等についてご報告いたします。

はじめに、1ページをご覧ください。2の(3)にあります調査の対象ですが、小学校6年生と中学校3年生の全児童生徒を対象に行われました。また、2の(4)の調査の内容についてですが、教科に関する調査と質問紙調査があり、教科に関する調査は、国語と算数・数学です。これらの問題は、さらに「主として知識に関する問題であるA問題」と「主として活用に関する問題であるB問題」の2つに分かれて構成されております。質問紙調査については、児童生徒を対象とした調査に加えて学校を対象とした調査の2種類が実施されました。

また、本調査の結果で示されている平均正答率は、2の(5)にあるように、文部科学省の考え方に準じて「全国の平均正答率(公立)の±5%の範

圏内にあり、大きな差は見られない。」としております。

続きまして2ページをお開きください。

2ページ及び3ページは、小田原市の全体像を捉えるために、各教科の平均正答率の一覧と過去4年間の全国平均との差のグラフを示しました。

3(2)①ですが、小中学校とも全ての教科において、全国平均正答率±5%の範囲にあり、「全国と大きな差がない」学力であると言えます。

②のグラフですが、小学校の全国平均との差をグラフ化したものです。算数Aを除き、全国平均との差が小さくなってきております。

3ページをご覧ください。こちらは中学校ですが、4年間続けてすべての教科で「全国平均±5%」をキープしていますが、全国との差が大きくなっていく傾向であります。

また、3ページの下段③ですが、平成25年度の小学校6年生と平成28年度の中学校3年生、これは同じ子供たちですが、この結果を比較したグラフを示しました。同じ母集団の3年後の変化を見るために作成したグラフですが、算数・数学Aについては、若干下がっていますが、全般的には、全国平均との差が小さくなってきております。

次に4ページをご覧ください。本市の無解答率についてのデータとグラフを示しました。本市では、昨年度、全国学力・学習状況調査に向けた重点目標を「無解答率の改善」と決めました。各学校で様々な取組を行いました。小中学校ともにすべての教科で、まだ、全国平均を上回っております。従いまして、今年度も引き続き、市の重点目標にしたいと考えております。しかし小学校においては、取組の成果が出ており、昨年比べて全般的に無解答率が低くなりました。中学校においては、若干上がっております。

次に5ページをご覧ください。国語と算数・数学のA問題の結果について、本市の課題のひとつである基礎的・基本的学力、特に漢字と計算に関する結果についてまとめました。漢字の読み書きについては、小中学校で、12問あるうち、11問が全国平均を下回っております。計算に関する問題については、中学校で2問全国平均を超えておりますが、小中学校で11問中9問が全国平均を下回ってしまっております。

漢字や計算などの基礎的・基本的学力は、思考力、判断力、表現力等の活用を支える基盤となるもので、大変重要な学力であると考えております。今年度は、無解答率の改善に加え、「基礎学力の向上」も市の重点目標に掲げたいと考えております。

次に6ページ下(4)から7ページをご覧ください。こちらは、国語と算数・数学のB問題について、本市の特徴的な傾向を示す問題を取り上げたものです。すでに成り立つことが分かっている事柄を問題の内容に合わせて活用し、解く問題や、文章に書かれていることを説明するために、別の資料等を活用して、根拠を明確にした説明文を作成する問題など、問題を解いた

り、自分の考えをまとめたりする上で、既習事項や他の資料等を有効的に活用するといったことに課題があると読み取っております。

次に8ページから10ページをご覧ください。質問紙調査の中で、本市の特徴的な傾向を示すものについて、グラフで示しました。

8ページの①のグラフでは、「最後まで解答を書こうと努力した割合」が小中学校ともに全国平均を下回っています。②では、「調査時間が足りないと感じた児童」が全国平均を上回っております。これらのデータは、本市の無解答率の原因のひとつであると捉えておまして、本調査を受ける意義等の指導をしっかりと行うことや問題形式に慣れていないことで時間が足りないのであれば、日頃からこういった問題形式に慣れておくことも必要であると思えます。

続きまして、9ページをご覧ください。③と④のグラフは、家庭で過ごす時間に関する質問です。昨年度より若干改善は見られるものの、家庭学習の時間が短く、ゲームやスマートフォンにかかる時間が長いといった本市の傾向は続いております。特に本市の中学3年生の43.8パーセントが1日に2時間以上ゲームをしていると回答しており、その点について課題であると捉えております。

最後に10ページをご覧ください。こちらは、学校が回答する学校質問紙の結果でございます。校内研修や全国学力・学習状況調査の結果分析に関するデータになります。こちらも昨年度同様、本市の教員は、授業改善等の校内研修に熱心に取り組んでいるという回答になっております。しかし、本調査の分析や分析結果を指導改善等に反映できているかについては、全国平均を下回っています。

指導力向上や授業改善などの研修に全国学力・学習状況調査の結果分析をしっかりと位置づけて取り組むよう、今後も教職員に伝えていきたいと思っております。

また、この結果報告とは別に、昨年度に引き続き、中学校区ごとに指導主事や教育相談員等が訪問させていただく中で、市独自で行った各学校ごとの分析結果を伝え、学力向上の取組に対する助言を行っていく予定です。10月19日から1校目がはじまりまして、11月下旬にかけて、各学校訪問をする中で実施をしていくところでございます。昨年は1月、2月に実施をしたのですが、10月、11月実施をしていく中で次年度の対応についても、授業改善に向けて働きかけをしていくことで進めさせていただいております。

以上で説明を終わらせていただきます。

なお、この結果につきましては、本定例会を受け、明日以降、市のホームページ上でも公開していく予定ですので、ご承知いただければと存じます。

どうぞ、よろしく願いいたします。

(質 疑)

吉田委員…無回答率を少なくしていくことが重点的な課題ということでしたが、具体的に学校現場ではどのような取り組みがあるのでしょうか。

教育指導課指導主事…無回答率の改善につきましては、各学校にお願いしたところ、先ほどあったように、特に小学生については日ごろ行っているテストとは状況がまったく違うテストを行っております。そういった状況に慣れなくて時間が足りないという子供たちが多いので、学校によっては、そのテストに似たような問題を前もって行うことによって、子供たちの力が十分に発揮できるようにしております。中学校においては、入試を考えると、「このテストは成績に関係があるのかなのか」と考えてしまう。そうではなくて、「関係ないけれども自分の学力を把握する上で重要である。」と事前に指導していただいております。

萩原委員…1ページの「調査の実施日及び調査の対象」に小学校第6学年（市内25校約1,600名）とありますが欠席状況等は分かりますか。

教育指導課指導主事…当日の欠席状況までは把握しておりません。

萩原委員…25校全6年生が何名かは分かりますか。

教育指導課指導主事…当日ですか。正確な数字でよろしいですか。

萩原委員…当日テストを受けていない児童が何名いるか知りたいです。

教育指導課指導主事…申し訳ございませんが、そこまでは分かりません。

教育総務課長…こちらに記載されている「約1,600名」「約1,700名」は、今年の5月1日の学校基本調査での、その学年に在籍している全児童数に近い数字でございます。たとえば、1,597名が実数ですので、「約1,600名」と記載されております。

教育指導課長…調査・結果の本体には受験者数がございますので、基本調査の人数から受験者数を引けば、欠席人数は出るのですが、今は持ち合わせておりません。

萩原委員…では、のちほど教えてください。

和田委員長…この調査結果が公表され、一般市民が目に見えますが、一般市民が小田原の教育に対して、どのような視点で見ると「学力」に大きなウェイトがおかれると思います。これが例年全国平均より劣っている数字を出さなければならないという、我々としては非常に辛いところです。これを何とかして、改善しなければならないということで、現場や指導主事の方が取り組んでいらっしゃるわけですが、なぜ平均以下という結果が続いてしまうのか。歯がゆい部分があるのですが、現場指導をしている先生方はどのように感じておりますか。

教育指導課指導主事…先生方は一生懸命授業をやっております。学校訪問をして、様々な学校を見させていただく、教師主導の教え方をしている先生はほとんどおりません。ただ、先ほど申したように、学校の教育研究のテーマを「一生懸命分かりやすい授業をやっていこう」としていたとしても、今回の全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえた上で、研究テーマを考えたり、子供たちのどこを伸ばしたいのかといった部分が少しマッチしていないところもあるのではないかと思います。また、基礎学力については、特に計算・漢字は小学校低学年からの積み重ねになります。小学校6年生が授業で受ける、小学校5年6年で習ったものだけでなく、1年生2年生の学習から学びなおす必要があると、教職員も意識してきております。

和田委員長…今後に期待できるというわけですね。

栢沼教育長…今、話がありましたが、10ページにあるように、学校としては、授業研究等全国平均を上回るほど年間通して行っております。本市の先生方は非常に熱心に取り組んでおります。しかしながら、結果には結びついておらず、ここに着目していかなければならないのではないかと思います。全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、いかに授業に生かし、改善していくのかが校内研究や授業研究とつながっていない。まったく無関係ということはないと思いますが、全国学力・学習状況調査結果の中で、本市の子供たちや自身の学校の子供たちが不足している力が何なのかが出てきます。それをどう次年度の校内研究のテーマあるいは授業改善の指標として位置づけ、授業改善を図っていくのかというつながりが基本的にないように思います。現状として、学校の先生一人ひとりが、校内研究や学力テストの結果を意識して授業改善に活かすといった取り組みができてきているのか、教育委員会としても把握していく必要があるのではないかと思います。

本調査の意義や取り組む姿勢を子供たちに事前に十分指導されていない。とありますが、先生方自身が学力調査に対して意識・意義について、どのように認識を持っているのかによっても、ずいぶん変わってくるのではないかと思います。今後、指導主事が学校現場を訪問する中で先生方の状況をつかみ、次年度へ向けて、自身の学校の学力テストと授業改善がどうつながっているのか、見極めていく必要があると考えます。年間通して数多くの校内研究をしている、あるいは授業改善に努力しているそこは十分認めているところですが、普段の授業でも行っているであろう漢字や読みの結果が下がってしまっているということは、これらが別に動いてしまっているのではないかと思います。こ

のつながりをどう持たせるかが今後の課題かと思います。

教育指導課指導主事…教育長のおっしゃるとおりだと思います。私たち指導主事が訪問時に根気よく伝えた結果、先生方の意識もだいぶ変わりつつあります。特に校長先生の意識がだいぶ変わってきたと実感しております。現在も各中学校を回っていますが、昨年と明らかに違います。教育委員会が訪問する前に校内で分析をしているような学校もございますので、意識が変わりつつあると感じております。また、今年度はじめて悉皆調査が行われまして、平成25年度から平成28年度にかけて、同じ子供たちが小学6年生時と中学3年生時で受けた結果が、今回初めて出ました。この結果に注目していたのですが、結果を見ると、どの教科も全国平均には少し及びませんが、少しずつ伸びてきております。こういった結果を示していくことで、先生方のやる気を引き出せていけたらと思います。

和田委員長…校長先生の意識が変わりつつあるのはすごく大事だと思います。栢沼教育長が就任される時に「教育長がメディアの前で頭を下げなければならないようなことはしてはならない。」と全校長にも申し上げました。幸いなことに頭を下げることなく現在に至るのですが、トップの意識はとても大きいと感じております。そういうことから、目覚しく変わった学校があれば、少なくとも教育委員会定例会の中では報告があっても良いのではないかと思います。緊張感をもって学力をあげる。市民の目線からみたら、やはり「学力」と「体力」です。この部分で劣ってしまっているのですから、小田原の教育に対する信頼度が問われてしまっていると思います。なんとか改善していただける方策を考えていただきたいです。1つには、この資料の分析を年度内でも結構ですが、先生方が異動された後の年度のはじめに、しっかりやっていただきたいと思います。異動してうやむやになってしまうので、年度内の行うのであれば、年度が替わったところで改めて、管理職の方々には行っていただきたいなと思います。

教育部長…委員長がおっしゃるように、学力や体力が全国平均を下回っていることは、教育長以下教育委員会みな課題だと認識しております。現場の先生は指導主事が話したように、非常に頑張っておりますが、その頑張りが結果に現れてこないといったところが、委員長おっしゃったように教育委員会としてももどかしくもあります。やはり、この学力の結果が特定の一部という思いもあります。極端に言えば、学力の結果を高くすればいいのであれば、過去問をやらせて、点数を取らせればいいという考えに陥ってしまう場合もあります。学力も大切ですが、子供たちが何のために義務教育を受けているのか、

自分で考えて自立をしていくための「生活力」を身につけていく学校現場であるためには、トータルの学力をつけていく「人間力」も大事だと思います。日々、現場の教職員は頑張っておりますし、これが課題だということは教育委員会も認識しておりますので、今、後期の総合計画の審議会ができて、教育委員会としての指標を3つほど挙げております。まだ、総合計画の審議会の中でいろいろ議論していただいている中で、教育長が言ってらっしゃる3大の課題が「学力」「体力」「不登校」がやはりでてきているというのが小田原市の課題だと捕らえておまして、この指標を後期基本計画の中で少しでも、全国区に近づけていこうと目標値にしようと考えております。一丸となってその目標を達成できるよう努力していきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

和田委員長…確かに社会に出たときに、きちんとした大人として、自立した大人にというのが最終目標ですから、知識の結果だけで、それが問われるとは思っておりませんが、総合的に見て、市長が教育のトップになったわけですから、全体で小田原の子どもたちの成長を見ていくのが大事なのかなと思いました。

(その他質疑・意見等なし)

(7) 報告事項(4) 平成28年度上半期寄付採納状況について (教育総務課)

教育総務課長…それでは、私から、報告事項(4)「平成28年度上半期寄付採納状況について」説明いたしますので、資料4をご覧ください。

平成28年度上半期の寄付採納の内容につきましては、資料1ページ及び2ページに記載したとおり、物品18件となっております。

本来であれば、その全てをご説明すべきところではございますが、時間の都合がございますので、一部のみの説明とさせていただきます。

まず、No.1でございますが、「株式会社 五神建設 代表取締役 石井 昇」様から、「矢作幼稚園の1、2階トイレブース交換工事、1階トイレバルブ漏水修理、外部倉庫ドア面材交換及びスチールラック一式」及び「豊川小学校の駐車場整備」のご寄付をいただきました。

石井様は、お子様が矢作幼稚園、豊川小学校に通われておりますことから、それぞれの教育環境の充実のため、家業のご提供をいただいたものでございます。

次に、No.7でございますが、匿名の方から「ベッド6台、マットレス4枚」

のご寄付をいただきました。ご寄付いただきました「ベッド」及び「マットレス」につきましては、希望のありました東富水小学校、報徳小学校、山王小学校及び白鷗中学校の保健室におきまして活用させていただいております。

次に、No. 9でございますが、「一般社団法人 小田原市電設協力会」様から「温度計36台」のご寄付をいただきました。こちらは体育館で部活動をしていた生徒が夏の暑さにより倒れ、訴訟になった事件がございました。温度の管理ができていなかったということで、行政側が敗訴にあったことを聞かれまして、ぜひとも温度計を設置していただきたいということで、ご寄付いただきました。「温度計」は、すべての市立小・中学校の体育館に設置し、活用させていただいております。

裏面に移っていただき、No. 12でございますが、匿名の方から「近藤弘明作の日本画『街裏』ほか162点」のご寄付をいただきました。

近藤弘明氏は、昭和24年、東京美術学校日本画科を卒業後、活発に創作活動に励まれ、昭和50年には日本芸術大賞を受賞されました。その後は、個展を中心に作品を発表されておりましたが、昨年9月にご逝去されました。本件寄付につきましては、市内板橋にアトリエを構えていたご縁により、実現をしたものでございます。こちらにつきましては、現在は収蔵庫に保管しておりますが、本市の芸術文化館への展示していただきたいということでご寄付いただいたものでございます。

簡単ではございますが、以上で説明を終わらせていただきます。

#### (質 疑)

萩原委員…近藤弘明氏の162点はとても多いですが、どのように保管されているのでしょうか。

教育総務課長…現在、松永記念館の収蔵庫に保管をしております。

萩原委員…松永記念館は空調設備等も整っているのではしたよね。

教育総務課長…はい。

#### (その他質疑・意見等なし)

和田委員長…それでは、先ほど非公開とすることにいたしました案件以外の議題は終了いたしましたので、非公開とすることにいたしました案件を審議いたします。関係

者以外の方は、ご退席ください。

(関係者以外退席)

(8) 協議事項 (1) 平成28年12月補正予算について【非公開】

(教育総務課・教育指導課)

7 委員長閉会宣言

平成28年11月22日

委員長

署名委員（萩原委員）

署名委員（森本委員）